

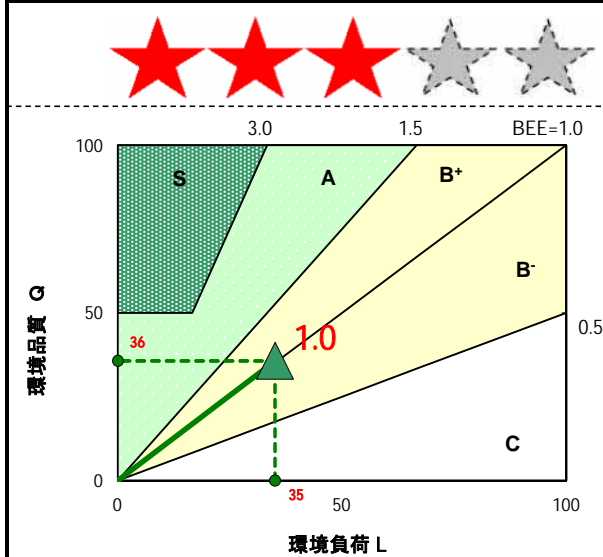
# CASBEE<sup>®</sup> 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ニシヤ商事(株)熊本営業所	階数	地上2階、地下0階
建設地	熊本県上益城郡嘉島町大字上島字	構造	S造
用途地域等	市街化調整区域	平均居住人員	10人
省エネ:地域区分	7地域	年間使用時間	2,673時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年4月 予定	評価の実施日	2023年6月23日
敷地面積	4,051㎡	作成者	若築建設株式会社九州支店一級
建築面積	1,150㎡	確認日	2023年7月18日
延床面積	2,220㎡	確認者	若築建設株式会社九州支店一級



## 2 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



BEE = 1.0

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

#### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

#### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



### 排出率

49%

## 3 熊本県重点評価結果

### ■ 重点事項総合評価



### 評価点

77

- 【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進
- 【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現
- 【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全
- 【重点事項4】 循環型社会の実現

### 評価点

90.0

50.0

80.0

74.2

### ■ 熊本県重点評価基準

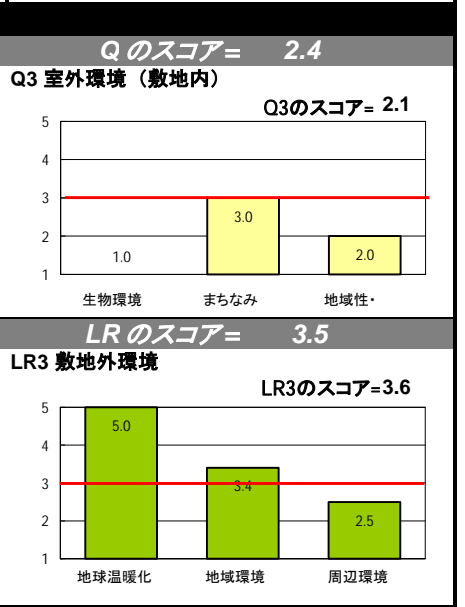
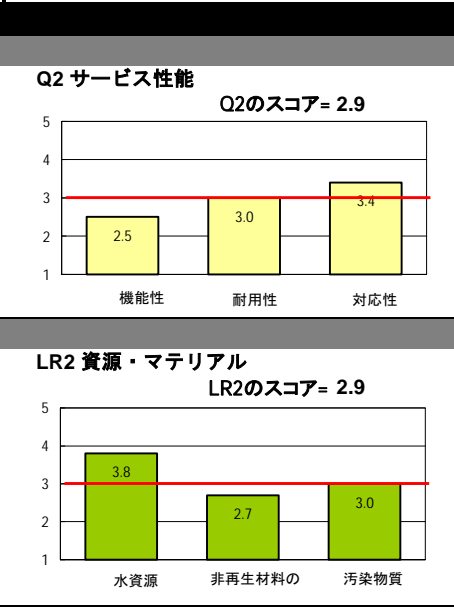
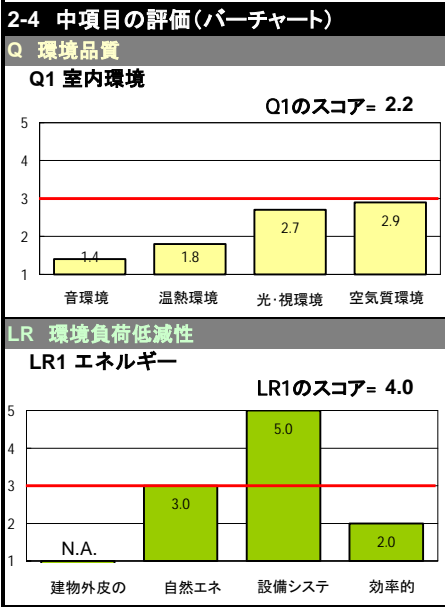
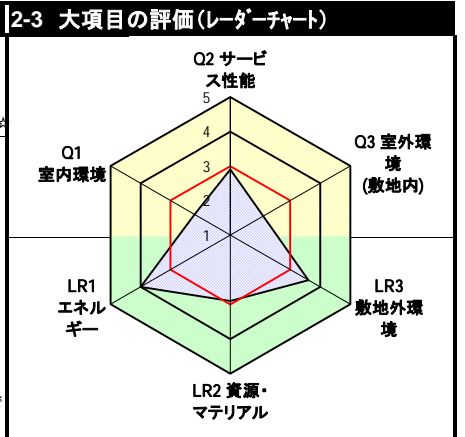
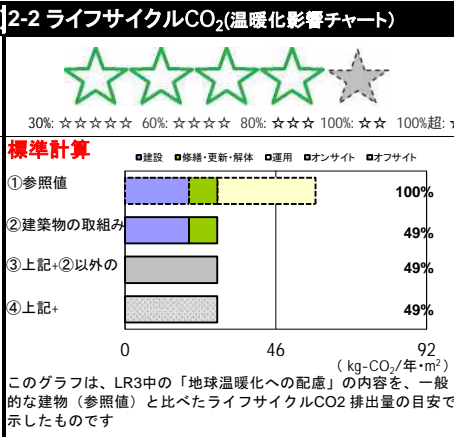
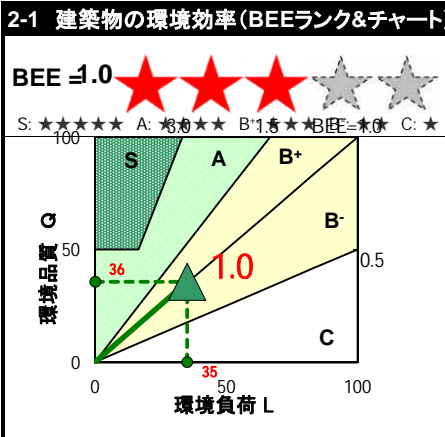
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

### 1-1 建物概要

建物名称	ニシヤ商事(株)熊本営業所
建設地	熊本県上益城郡嘉島町大字上島字
用途地域等	市街化調整区域
省エネ: 地域区分	7地域
建物用途	工場
竣工時期	2024年4月 予定
敷地面積	4,051 m <sup>2</sup>
建築面積	1,150 m <sup>2</sup>
延床面積	2,220 m <sup>2</sup>

階数	地上2階、地下0階
構造	S造
平均居住人員	10人
年間使用時間	2,673 時間/年(想定値)
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2023年6月23日
作成者	若築建設株式会社九州支店一級建築士事務所
確認日	2023年7月18日
確認者	若築建設株式会社九州支店一級建築士事務所



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

スコアシート 実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>			<b>2.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>1.4</b>	0.15			<b>1.4</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>1.0</b>	0.40			
1.2 遮音		<b>1.0</b>	0.40			
1 開口部遮音性能		1.0	0.60			
2 界壁遮音性能		1.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.8</b>	0.35			<b>1.8</b>
2.1 室温制御		<b>2.7</b>	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能		2.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20			
2.3 空調方式		1.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25			<b>2.7</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備		3.0	0.40			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00			
3.3 照度	事務室照度が500lx以上1000lx未満。	<b>4.0</b>	0.15			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>2.9</b>	0.25			<b>2.9</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築資材を建物の全面的に使用。	4.0	1.00			
4.2 換気		<b>2.3</b>	0.30			
1 換気量		3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33			
4.3 運用管理		<b>1.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-			
2 喫煙の制御		1.0	1.00			
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>			<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>		<b>2.5</b>	0.40			<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.3</b>	0.40			
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペースが12㎡以上。	5.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33			
3 バリアフリー計画		1.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		<b>2.0</b>	0.30			
1 広さ感・景観		3.0	0.33			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33			
3 内装計画		1.0	0.33			
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保	清掃資材の保管場所や洗い場の確保、廃棄物スペースの確保など。	4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30			<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.5</b>	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート、ビニルクロス貼:20年	5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出部分にガルバリウムダクトを使用している。	4.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔	変圧器:30年	5.0	0.20			
2.4 信頼性		<b>2.6</b>	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20			
5 通信・情報設備		3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
3.1 空間のゆとり			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		階高が3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率が0.1以上0.3未満。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.1</b>
1 生物環境の保全と創出			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
2 まちなみ・景観への配慮			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
3 地域性・アメニティへの配慮			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>1.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.0</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = -	<b>5.0</b>	0.63	-	-	<b>5.0</b>
4 効率的運用			<b>2.0</b>	0.25	-	-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
1 水資源保護			<b>3.8</b>	0.20	-	-	<b>3.8</b>
1.1 節水		節水コマ、擬音装置、節水型便器、自動水栓などを採用。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.7</b>	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		生活用水として井水を利用している。	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			<b>2.7</b>	0.60	-	-	<b>2.7</b>
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロアを採用。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.6</b>
1 地球温暖化への配慮		大気汚染の防止、交通負荷の抑制。	<b>5.0</b>	0.33	-	-	<b>5.0</b>
2 地域環境への配慮			<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない。	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		十分な駐車スペースの確保・出入口を2か所設置。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			<b>2.5</b>	0.33	-	-	<b>2.5</b>
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			<b>1.6</b>	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照障害の抑制			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックを一部満たし、広告物照明は未設	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

建物名称 ニシヤ商事(株)熊本営業所

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		77
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				90	0.40	36.00
Q1-2.1.2	外皮性能	2.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.10			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				50	0.20	10.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	4.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.5	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

## ■ 環境関連の配慮事項

ニシヤ商事(株)熊本営業所

印刷:モノクロ  
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項	※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	適切な照明計画や空間にゆとりを持つことで、利用者が快適に業務を行える設計をしている。また、太陽光発電設備の導入や節水可能な仕組みを取り入れることで環境へも配慮した設計となっている。
Q1 室内環境	事務室の照度は500lx以上1000lx未満を確保し、適切な照明計画を行っている。また、建築基準法規制対象外となる建築資材を建物の全面的に使用し、化学汚染物資の発生がないよう配慮している。
Q2 サービス性能	事務室1人当たりの執務スペースを広く取り、収納性や使いやすさに配慮している。また、階高にゆとりを持ち快適に業務が行えるよう設計している。
Q3 室外環境 (敷地内)	燃焼設備を設けず、敷地内の歩行者空間等の暑熱環境を緩和するよう配慮している。
LR1 エネルギー	太陽光発電設備を設け、設備システムのエネルギー消費量の削減に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水型便器、自動水栓、擬音装置など節水可能な仕組みを取り入れ、水資源保護に配慮している。また、OAフロアを採用し部材の再利用可能性向上への取組みを行っている。
LR3 敷地外環境	燃焼機器を使用せず、大気汚染防止に配慮している。また、十分な駐車スペースを確保し、出入り口を複数設けることで交通負荷抑制に配慮している。
その他	特になし。